

比較的好調な外需背景に増加

アルミ圧延品生産は増加、二次合金生産は微減

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏
米債務上限引き上げ問題などによるドル高傾向、中国電力カットや

■国際概況

恒大など不動産問題波及による同国経済減速懸念などのマイナスマテリアルもあつたが、中国の電力不足が深刻化するなか、同国のアルミ減産とそれに伴う需給引き締め懸念を好感しLMEアルミ相場はUP、十月十五日時点で三、一五二ドル(セツル)と月初価格から三〇一ドルUPの前半締めとなった。

後半は、九月の米個人消費支出(PCE)価格指数が前年比四・四%上昇と前月の四・二%上昇などのプラス材料あつたが、アジア・欧州株安、ドル高傾向と中国開発局が不法在庫取り締めり含めた燃料炭価格抑制策を発表したことを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、十月末日現在、後半スタート価格から四六八ドルDOWNの二、六九五ドル。

■国内概況

同月比三・二%増、六カ月連続の増加。季節調整済年率換算値では八四万五千戸。前月比一・二%減、二カ月連続の減少。

◆貿易関連指標

輸出
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比一三・三%増の一五二一t、二次合金が五・一%増の二、三七〇t、スクラップが四二・八%増の二万七、〇五九t、アルミ缶が一・四%増の七、七九三t。

輸入
輸入は新地金が前年比四二・一%増の一〇万四〇三t、二次合金が二九・九%増の八万五、〇〇三t、スクラップが八・九%減の四、七七一t、合金スクラップは六・二%増の五、六九〇t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比七・六%増の二六万一、一七五tと九カ月連続プラス。

アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・六%減の六万二、八〇二tと、一カ月ぶりマイナス。

出荷は〇・二%減の六万三、八九四tと一カ月ぶりマイナス。(六圓へ縮く)

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)
一一・二四三→一一・四六七(円)。

◆自動車生産台数

生産動向統計によると、九月の自動車生産台数は前年比四九・七%減の三九万八、〇七五台。

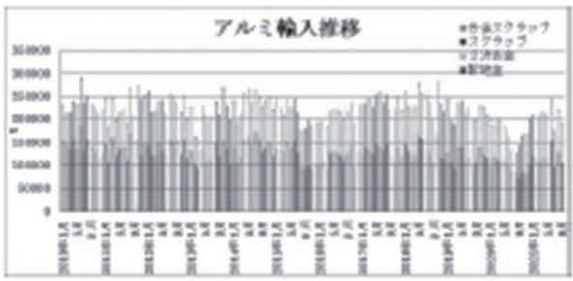
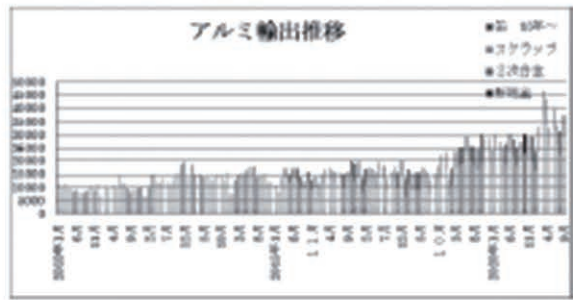
◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、十月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇・二%減の一七万六、七四三台。

◆住宅着工戸数

九月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比四・三%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・二%の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万三、一七八戸。前年同月比四・三%増、七カ月連続の増加。新設住宅着工床面積は六、〇二二千㎡。前年



スクラップ不足続くカーLMEアルミ相場、大幅安でも

(四圍より続く)

■国内概況まとめ

【自動車生産】生産動向統計によると、九月の自動車生産台数は前年比四九七・七％減の三五万八、〇七五台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、十月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇・二％減の一七万六、七四三台。

このうち乗用車三二・〇％減、貨物一八・二％減、バス四・四％増。

【住宅着工戸数】

九月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比四二・三％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・二％の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万三、一七八戸。前年同月比四三・三％増、七カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六、〇二二万㎡。前年同月比三二・二％増、六カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八万四千五百戸。前月比一・二％減、二カ月連続の減少。

【アルミ圧延・押出し生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出し生産合計は前年比七・六％増の一六万一、一七五と九カ月連続プラス。

このうち板類は九万八、五二四トンで七・六％増と九カ月連続プラス。押出類は六万二、六五二トンで七・八％増と七カ月連続プラス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比〇・六％減の六万二、八〇二と、一〇カ月ぶりマイナス。

出荷は〇・二％減の六万三、八九四と一〇カ月ぶりマイナス。

【輸出】

アルミニウム二次合金が前年比三三・三％増の一五・一、二次合金が五・一％増の一・三七〇と、スクラップが四二・八％増の二万七、〇五九、アルミ缶が二四・四％増の七・七九二。

【輸入】

アルミニウム二次合金が前年比四二・二％増の一〇万四、〇三三と、二次合金が二六・九％増の八万五、〇〇三と、スクラップが二八・九％減の四二・七と、合金スクラップが六一・二％増の五、六九〇。

【見通し】

九月の自動車生産が四九七・七％減、十月国内販売台数が前年比三〇・二％減。前月に続く生産、販売共に急減少→半導体以外の中国からの部品供給の遅れからとの

事。今後に注視。

・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出し生産合計は前年比七・六％増の一六万二、一七五と九カ月連続プラス。

今後プラスが続くかの動向に注視。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比〇・六％減の六万二、八〇二と一〇カ月ぶりマイナス。

出荷は〇・二％減の六万三、八九四と一〇カ月ぶりマイナス。

半導体以外の中国からの部品供給の遅れによる自動車生産販売の急減に伴う減少と分析。いつプラスに戻るかに注視。

・アルミ輸出は外需が比較的好調なことを受けて大幅増。

・アルミ輸入は輸入値の高騰による代替需要の国内玉の不足から大幅増。

【スクラップ相場予想】

流通(一次問題)在庫はLME価格が三一・八〇ドルと、ここ最近の高値をつけ(その後二、六〇〇ドル台まで下落)で高止まりしたことから、手放す問題は少なく玉不足は続く。需要面に関して前月に続き中国の部品調達遅れからの自動車生産の減少傾向があるが、挽回生産に向けた在庫積み上げから価格は旺盛。

仮に急落してもその価格での販売に躊躇する間もなく多く、定期で入らないメーカーでは高値買いの傾向が今後も続く。

【LME・為替予想】

今月は
①燃料炭価格抑制策の動向
②中国不動産大手・恒大集団の経営不安問題
に左右される

①に関して中国雲南省全体は電解アルミニウム業界への実施中及び実施予定の優遇電気料金政策を取り消すなど強硬措置を続けており、工業用金属の需要減退懸念は引き続き今月も行われるのではないかと。

②に関して

ドル建ての利払いを行うなど立て直す意思はあるようだが中国国家统计局が発表した十月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は四九・二と市場予想(四九・七)に反して前月の四九・六から低下した。五〇を二カ月連続で下回った。

ことなどから、予断はゆるさぬ状況。

これらを踏まえた十一月のアルミ価格は二、六〇〇〜二、九五〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一一〇円〜一一五円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては据え置きから一〇円安〜一五円安程度と予測している。